

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス めばえ			
○保護者評価実施期間	令和7年2月4日 ～ 令和7年3月10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	令和7年2月4日 ～ 令和7年3月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援訓練の実施・提供しています。 個別言語訓練では構音訓練やことばの発達を支援しています。専門職員（言語聴覚士、作業療法士、理学療法士）が在籍してプログラムを行っています。	1対1での個別訓練を行っています。個別言語訓練では構音訓練やことばの発達を支援しています。専門職員（言語聴覚士、作業療法士、理学療法士）が個別で1人1人に合わせた個別プログラムを科学的根拠に基づいて評価しながら提供しています。	外部研修に参加するなど質を高めてきます。 施設内研修を行い、職員全員での共通理解を高めていき、療育の質を高めていきます。
2	職員の配置数が充実している。	利用児1人につき1人の大人がつけるよう、手厚い支援が提供できるように定員数に対し、職員の配置を行っている。 集団の中でもやりとりの機会を多く持ち、ことばとコミュニケーション、対人面の発達につなげることができるよう職員の数は多く配置している。また、送迎時にも常時2人体制での対応ができるようにしている。	個別支援計画に基づき、全職員が同じ方向を向き、目的意識を持ち支援にあたることができるよう情報共有と研修を重ねていきます。
3	多彩なプログラムの提供	保育士と専門職員（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が連携し、毎月の集団プログラムを立案しています。それぞれの強みを活かし、プログラムの作成を行うことで療育内容の拡充を図っています。外出プログラムやクッキング、イベントプログラムも行っています。	日々の振り返りを行い、発達とニーズに合ったプログラムとエビデンスに基づく支援を行っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流が少ない。 外部連携が少ない。	地域とのかかわりの機会が少ない。外部交流などのニーズが少ないこともあり、優先順位は低くなり、積極的なかかわりを考慮してこなかった。	地域交流の機会を検討し、地域イベントへの参加など事業所でのイベント開催を行う事ができるよう検討していきます。
2	教室の広さ。	基準は満たしているが、運動を集団で行うには少し狭く感じる部分があります。	運動プログラム時のフロアの使い方を検討していきます。
3	保護者会やきょうだい支援が少ない。	保護者会の開催やきょうだい支援や交流などの機会が少なくとも1年に1回のイベント開催にとどまっています。	保護者のご意見を取り入れながら検討し、イベントや保護者会の開催が行えるよう取り組みます。